

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	清瀬市子どもの発達支援・交流センターとことこ		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		～ 2026年 2月 18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2026年 2月 17日		～ 2026年 3月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画に基づく支援が適切に実施されており、支援の一貫性と質の安定が図られている。	支援内容や子どもの様子について、日常的に保護者へフィードバックを行い、理解と安心感の醸成に努めている。	保護者への説明方法や情報発信の在り方を見直し、支援内容や事業所の取組についてより分かりやすく伝える工夫を行う。
2	職員間の情報共有や役割分担が適切に行われており、組織としての支援体制が確立されている。	職員間でのケース共有や記録の活用を通して、支援方針の統一と継続性の確保を図っている。	職員間での支援の振り返りや検討の機会を充実させ、支援の質の更なる向上を図る。
3	保護者への説明や日常的な情報共有が丁寧に行われており、信頼関係の構築が図られている。	安全面や環境面について日常的に確認を行い、事故防止および安心して利用できる環境の維持に努めている。	保護者からの意見や評価結果を踏まえ、支援内容や事業所運営の改善に継続的に取り組む。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域におけるニーズが高い一方で、定員や人員体制の制約により、すべての利用希望に対応することが難しい状況にある。	地域における発達支援ニーズの増加に対し、人員体制や提供枠の拡充が追いついていないことにより、受入れに制約が生じている。	利用枠や支援体制の在り方を見直すとともに、関係機関との役割分担や連携を強化し、地域全体での受入れ体制の充実を図る。
2	個別支援は適切に実施されている一方で、一人ひとりの課題に対するより専門的・個別的なアプローチの充実に向けた検討の余地がある。	個別的な支援の必要性がある一方で、部屋や人員体制の制約により、取り出しによる個別支援の実施対象が限定的となっている。	事例検討会議の実施や発達検査結果の共有を通して、個別支援の視点を全職員で共有し、取り出しによる支援が難しい場合であっても、集団場面の中で個々の課題に応じた支援が行えるよう工夫していく。
3	日々の支援業務が中心となる中で、支援内容の振り返りや効果検証を体系的に行う時間や仕組みが十分とは言えない。	日常業務において支援提供が優先される中で、支援内容の振り返りや効果検証を体系的に行うための時間および仕組みが十分に確保されていない。	支援の振り返りや評価を行う時間を計画的に確保するとともに、記録の活用や会議の工夫により、継続的な改善サイクルの構築を図る。